

2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 02 月 09 日作成)

小委員会名	設備管理指針検討小委員会		主 査 名：永峯 章 就任年月：2000 年 04 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会(建築設備運営委員会)		委員長名：加藤信介 主 査 名：川瀬貴晴
設 置 期 間	2005 年 04 月 ~ 2007 年 03 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・設備管理指針の検討 ・建築設備のロングライフ化 ・設備管理ガイドラインの作成 		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有り 永峯章(東洋大学)前川甲陽(日本環境管理学会)安蘇秀徳(東京美装興業(株)我孫子義彦(株)ジェス)鎌田元康(東京大学)小松正佳(NTT ファシリテーズ)中島康孝(NPO 法人建築環境・設備技術情報センター)田中毅弘(東京工大)関口正男(前橋工科大学)八木澤雅幸(三機工業(株))		
設置 WG (WG 名：目的)			
2006 年度予算	80000 円	ホームページ公開の有無：無し 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	8 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. シンポジウム 建物管理ガイドライン・建築管理規準・清掃管理規準・設備管理規準のまとめ方 と今後の展開 参加者数 50 名 建物管理ガイドライン・建築管理規準・清掃管理規準・設備管理規準のまとめ方 と今後の展開
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	1. ビルメンテナンスの側からみた使いやすさのコメントと早期出版の希望がありました。
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 設備管理ガイドラインとして完成
委員会活動の問題点 ・課題	

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。
- * 環境本委員会傘下の小委員会においては、上記の活動成果報告書に加えて、以下の自己評価を記入すること。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

2006 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

<p>総合評価 (4段階評価)</p>	<p>A</p>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>事務所だけでなくマンションや学校の設備管理ガイドラインについても検討を行い。建物管理ガイドライン(建築・設備を含む)として出版を企画。</p> <p>委員会は建築経済委員会施設マネジメント小委員会建物管理指針検討小委員会と合同で建築と設備の関係を重視しながら設備管理ガイドライン案の具体的な事例検証を行い、実際の建築設備管理ガイドライン(事務所建築 10000 m²) に反映するアカデミックスタンダードを作成した。</p> <p>シンポジウム 建物管理ガイドライン・建築管理規準・清掃管理規準・設備管理規準のまとめ方と今後の展開(参加者 50 名)</p> <p>外部評価(パブリックコメントと外部査読の実施)</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価(シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など)に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。